

## あさかぜ

高知学芸高等学校同窓会関東支部

機関誌 36号

2023.10

〒263-0005

千葉県千葉市稲毛区

長沼町263-16-3 石川明男

TEL. 043(257)2614

FAX. 043(257)2614

# 第36回関東支部総会は 関東支部同窓会幹事会が10月28日(土)に 4年ぶりに学士会館で開催します！

## 【主なコンテンツ】

第35回（2022年）関東支部総会レポート

特別授業レポート 「海外から見た日本」 井上 雅文氏（8期）

SPECIALインタビュー 「人との繋がりが人生を回す」 坂本 雅代 教頭先生（20期）  
各期の声

第36回総会 卒業50周年・特別授業のお知らせ

高知学芸高校同窓会 第36回関東支部総会のご案内

## 第35回（2022年） 関東支部総会 開催

本部、各支部の総会中止が相次ぐ中、昨年10月29日に、第35回関東支部総会を開催しました。関東支部幹事会が都内から配信し、本部役員や先生方は学芸高校から、同窓生は各自宅等から参加し、総勢50名近くがオンラインで集いました。

同窓会本部からは、西川博行会長（6期）、福田恵美副会長（6期）、浜田祥夫常任幹事（19期）が、学校からは、橋本和紀校長先生、森下表先生（社会・同窓会副会長兼任）、蒲原宜彦先生（英語・同窓会会計兼任）に加え、村岡高光前校長先生が参加されました。関西支部からは、山岡聖子事務局長（25期）、植田幸一事務局顧問（5期）が、中国支部からは、平石浩治事務局（25期）、平石千津編集員（25期）が、香南嶺



石川関東支部長

北南国支部からは東條美紀副支部長（8期）が参加されました。

今回は、伊野部京子氏（23期）の司会で行われ、第1部は、石川明男 関東支部長（6期）の挨拶でスタートし、活動報告、会計報告、監査報告が行われました。

石川関東支部長からは、「私は35回、この会に皆勤賞で長く携わってきましたが、オンラインでやっているのに役員改正ができておりません。来年の総会は、学士会館で2023年10月28日の土曜日を予約できました。来年はそういうことも含めて定時、定番では非やりたいと思っております。」との挨拶がありました。

西川同窓会本部長からは、全国の同窓会支部の状況や、高知の明るい話題について、ご紹介いただきました。

「今日は恒例になりましたリモートでの関東支部総会ですが、今年は関西支部総会もリモートで開催され、関東支部の皆様方のご支援、ご協力の賜物だったと伺っており、私からもお礼を申し上げます。

地元高知の明るい話題として、来年のNHK朝ドラで、牧野富太郎博士が放映されることになり、地元



同窓会本部 西川会長

の佐川町はもとより、高知県を挙げて大変盛り上がり、博覧会も開催されると報道され、皆様方と共に応援したいと思っております。

母校は学校創立65周年を迎えておりますが、皆様方と共に同窓会の旗のもとに結集して、母校の発展に同窓会として大いに貢献したいと思っておりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力をよろしく申し上げます。

橋本校長先生からは、学校の近況についてお話を頂きました。

「一昨年からのコロナ禍で、学校の方も、まだ少し影響は残っていますが、学校の行事等はできるだけ実施しつつ、本来の形に近づけていきたいと考えています。9月の中学校の運動会、高校の体育祭は、少し競技の工夫をして、通常の形に近い開催が出来ました。今週は、高等学校の研修旅行を実施しました。一昨年は中止、昨年は予定の半分の行程の

短縮実施、今年は元々の行程をすべて実施することができました。外国人の方も日本に入国を始めているということですので、本校が姉妹校提携を結んでいるオーストラリアとの交流も、来年あたりから再開できればと考えているところです。

今年度の本校の変化の一つは、4月から、女子生徒の制服でスラックスを選択肢の一つとしたことがあります。スラックスの採用については、生徒の多様性への配慮が全国的にも進んできており、加えて、冬の防寒対策や、運動しやすさということも考え合わせて決断しました。ただ、これまでの制服をなくすのではなく、選択肢を一つ追加したということですので、伝統を守りつつ、社会の変化にも対応していこうということでも、ご理解頂ければと思います。今春の大学入試は、一般的には平均的な成績であったと思っておりますが、昨年、大きく成果を伸ばした難



橋本校長先生

関大の合格者は減少しており、残念なところでした。ただ、近年、国立への合格率が徐々に上がってきており、引き続き土台を固めつつ、レベルアップを図っていきたいと考えております。

一方、クラブ活動などの生徒の活躍ぶりですが、全国に進んだ活動もたくさんあります。また、クラブ活動ではないですが、中学2年生の女子生徒がレスリングで全国優勝し、7月のアジア大会で銀メダルを獲得しました。このように部活動ではないですが、学校の勉強と平行して個人的にレスリングなどをして成果を大きく挙げている生徒もおり、色んな分野で生徒が活躍していることを大変うれしく思っています。

今年度は中学生が772名、高校生が803名の1575名で、実は昨年度よりも14名増加しています。少子化の中で、増加していくことは大変喜ばしいと思っております。子供の数は減少することがあっても、増えていくことはなかなかないので、生徒募集は年々大変になってきていますが、受験生にとって魅力的な学校であるように、これからの経営活動に努めていきたいと考えています。」

第2部では、シンガポール支部長でもある井上雅文氏(8期)が「海外から見た日本」というタイトルで、シンガポールから特別授業をしていただきました。47年間の海外生活体験や、新型コロナウイルスを世界に先駆けて開発されたこと、学芸高校の後輩に向けたメッセージなど、興味深い話をして頂きました。

「さよならは言わない」斉唱後の第3部では、3回目となる部活動発表会を行いました。今回は、2022年にインターハイに出場した体操部、毎年県内大会で上位進出しているサッカー部、県展などに多くの入選者を出している美術部の活動が披露されました。

部活動発表会の後、関西支部の山岡事務局長、中国支部の平石事務局からも、ご挨拶を頂いた後に、全員で「学芸讃歌」を斉唱して総会は終了しました。

総会終了後、関東支部の配信拠点、学芸高校、オンライン会議参加者で懇談し、旧交を温めました。

今年の関東支部総会は10月28日(土)に4年ぶりに学士会館で開催します。皆様に対面でお会いできることを楽しみにしております。

## 特別授業

## 海外から見た日本

井上雅文氏（8期）



皆様こんにちは。私はシンガポールに移り住んでもう27年になります。今日は、こちらから見た日本の印象を少しお伝えできたらと思います。

私の経歴を少し話します。私は高知市生まれで、学芸高校の8期です。学芸中学校は2期です。学芸中学校の時は、高橋先生に目をかけてもらって期待されましたが、途中、体を壊して、ついていけなくなりしました。それで高校に行った時には、もう下から数えた方が早いぐらいの成績で出て行きましたので、学芸は苦手でした。ただ、苦手の分だけ情熱を注ぐものが必要だと思って、陸上をやりました。陸上競技では努力したので、学芸といえば陸上部という印象が残っています。

## 【海外に行くきっかけ】

みんな大学に行くという流れがあ

## &lt;井上 雅文氏 経歴&gt;

- ・高知県高知市生まれ
- ・高知学芸中学（2期）
- ・高知学芸高校（8期）
- ・東京理科大学 理学部 1部 応用化学科
- ・1975年～1995年  
カナダカルガリー州立大学大学院 医学部 生物化学科  
抗ウイルス薬研究室
- カナダフットヒルズ州立病院 病理部 遺伝子診断科
- ・1996年～2003年  
シンガポール国立大学 分子細胞生物研究所 (IMCB)
- ・2003年～現在  
シンガポール産業省 科学技術庁研究所 (A\*STAR)  
分子細胞生物研究所 (IMCB)  
薬品開発研究所 (ETC-EDDC)  
診断技術開発研究所 (DxD hub)
- ・2019年：高知学芸高校同窓会 シンガポール支部 支部長
- ・2020年：シンガポール政府が功労者に贈る「ナショナル・デイ・アワード」受賞

ったので、私も、という感じで受験をしました。地元の大学と東京理科大学に合格しました。高知から出たという理由だけで、東京の大学を選びました。当時は、学生運動が非常に盛んで、ほとんど勉強していません。学芸高の時は、村岡先生のお父さんの村岡先生が面白い授業をしてくれた化学と、馬島先生の物理が好きでした。馬島先生が東京理科大学卒業だったということも、少なからず影響しています。化学を選んだのは、村岡先生の影響でもありません。大学では授業もほとんどやってないような状況だったので、その隙間時間を利用してヨーロッパに3ヶ月ぐらい旅行に行きました。その時得た

体験で、将来は外国に行って働いてみようと考えました。技術者移民を推奨していたカナダを選び、カナダ大使館に何度か足を運びました。運よく、カナダで働くことが許可されカルガリー大学にたどり着く道が見つかりました。

入れてもらった大学の教室は、インターフェロンという抗ウイルス物質の研究をやっていました。これがきっかけで、ウイルス・抗ウイルスというものに非常に興味を持ちました。学芸の落ちこぼれですけど、興味のある対象が見つければ何とかなるといふ実感を持っています。大学の研究室の教授が退官したことで、隣にある州立大学病院に移りました。その病院では新しく遺伝子診断を始めるといふことで、研究者を探していました。この仕事を辞めるまで、20年間カナダに住んだことになりません。カナダの印象は、本当に寒いところで、日本が恋しくて恋しくてたまりませんでした。

カルガリーにいた時に、母親が送ってきた新聞で、学芸の修学旅行事故を知ったことを思い出します。非常に残念な事故でした。

## 【カナダからシンガポールへ】

20年住んだカナダを後にして、シンガポールに移ります。

きっかけは、先に述べました大学の研究室の教授が、たまたまシンガポール出身で、新しくできた分子細胞生物研究所 (IMCB) があるので来ないかと呼んでくれたからです。それが1996年で、それからかれこれ27年目ぐらいになります。結果、シンガポールの生活の方がカナダよりもずっと長くなりました。

シンガポールの科学技術を高めるという目的で設立されたIMCBは当初、シンガポール大学の一部でしたが、2003年、国の研究機関、A\*STARに昇格し、その後シンガポールの科学技術研究を引っ張って行きます。私は、いろんな人との縁で、はじめIMCBから始まり、薬品開発研究所 (ETC-EDDC) に移ります。今は、診断技術を開発する診断技術開発研究所 (DxD) という所

で研究開発をやっております。

シンガポールは、アジアのどこにあるのか分からないという方もいらっしゃると思いますが、意外と近いです。高知、大阪あたりから4900km、時間というとうと6時間半。東京から7時間ですが、これはニューヨークからロサンゼルスと同じぐらいです。日帰りする人もいます。

シンガポールは英語が公用言語です。また多民族国家で、国際的な環境は非常に良く、日本の駐在員から最も住みやすい国と言われてます。科学技術においても、知的財産の保護は世界基準で、安心して技術開発ができます。

1989年にPCRの技術が発表されました。カナダではPCRはすぐに医療現場で使われていたが、シンガポールでは2003年でもまだ使われていませんでした。

カナダで学んだこのPCRの技術がシンガポールでSARS-1の時、役に立つことになりました。シンガポールの感染症専門病院の診断部長と一緒に検出キットに取り組みました。この時は幸い、日本では被害は出なかったですが、シンガポールは60人の被害が出て、今思うと本

当に少ない人数なんですけど、非常に深刻な状況でした。その時に作った遺伝子診断キットは、こちらの医療現場で使われた最初の例です。

### 【新型コロナPCR検査キット

#### 開発の経緯】

新型コロナの話ですが、何がきっかけでPCR検査キットを作ったかの話をお願いします。丁度2019年の12月31日に、日本からの機内で見えたNHKのニュースで、中国の武漢で奇妙な肺炎が起きていることを知りました。すぐ友人にこのウイルスについての情報を尋ねましたが、まだ詳しくは知りませんでした。1週間後には、コウモリ由来のコロナ



新型コロナ PCR 検査キット作成チーム

ナウイルスだとわかり、それからまた1週間後、中国のCDCからそのウイルスの遺伝子配列が発表され、私はすぐに遺伝子検査キット作りを始めました。1月下旬、キットの病院での評価が終わり、即、医療現場で使われ始めました。その時、2年後には、45か国に100万検体単位で出荷しているとは思ってませんでした。

検査キットを作るには、たくさん的人数が要ります。A\*STARのバイポリスというところの研究所の有志が集まり、一丸となってキットを作りました。危機的状況下、国はすぐに資金を出してくれました。キットの材料が手に入らない中、各所に手配をして材料を集めてくれました。この時は、シンガポールの連帯の良さをつくづく感じました。検査キットは、まずは中国の新型コロナウイルスが発生した武漢に送ろうということで、シンガポール外務省を通じて、第1便が1万人分、それから第2便でもう1万人分送りました。PCRの機械も一緒に。この時は研究所の50〜60人が夜遅くまで働き、また早朝戻って来るような生活が4〜5日続きました。人道支援で中国に検査キットを送った後も、いろんな国に

検査キットを送るには、たくさん的人数が要ります。A\*STARのバイポリスというところの研究所の有志が集まり、一丸となってキットを作りました。危機的状況下、国はすぐに資金を出してくれました。キットの材料が手に入らない中、各所に手配をして材料を集めてくれました。この時は、シンガポールの連帯の良さをつくづく感じました。検査キットは、まずは中国の新型コロナウイルスが発生した武漢に送ろうということで、シンガポール外務省を通じて、第1便が1万人分、それから第2便でもう1万人分送りました。PCRの機械も一緒に。この時は研究所の50〜60人が夜遅くまで働き、また早朝戻って来るような生活が4〜5日続きました。人道支援で中国に検査キットを送った後も、いろんな国に



功労賞 受賞式

も送りました。パナマにも、フィリピンにも送り、感謝されました。それからネパール、などなど。

この2020年2月の段階で、日本ではPCR検査は普及していませんでした。シンガポールが早かったのは、2009年に豚インフルH1N1が来た時に、病院ですでにPCR検査を導入した経験があったからです。日本でPCR検査が遅れて感染が増えた理由の一つには、この2009年の時のPCR検査の失敗があると言われています。

検査キットを作った功績という事で、シンガポール政府から功労賞をもらい、建国記念日のパレードにも招待していただきました。

### 【シンガポールから見た日本】

日本というものを、外国から見たらどういふふうに見えるかを手短かに

話してみます。

最初は経済の話です。一番手取り早いのは給料の話です。平均的な給料はGDP per Capitalで計ると言われています。1995年の時は、シンガポールは2万3千USDドル、日本は4万2千USDドル、明らかに日本の方が豊かで生活水準が高かった。それが、2021年では、シンガポールは7万2千USDドルで、世界で第5位に。日本は下がって、3万9千USDドルで第27位に。この25年余り、日本人の給料は上がってないということになります。一方シンガポールは2倍以上給料が上がり、生活水準が上がった。

日本で期待できる点の話をします。日本には素晴らしい自然、素晴らしい食材があります。誇りに思っ下さい。あと清潔で、日本人の親切、礼儀作法の良さも有ります。職場でこのコロナが終わったらどこに行きたいか？との質問に、日本に行きたいという人が6割ぐらいになりました。メイド・イン・ジャパン、これはもう30年前からずっと言われているのですけど、いまだに健在です。日本製品は人気があります。これらの事は日本人に知って欲しいこ

とです。

心配な事ですが、昔、繁華街だったところがシャッターを下ろし、通り全体の活気が無くなっています。他には、日経新聞の英語版に“Japanese are working less and less.”と出ていたように、あまり働かなくなってきたのかなっていうこと。また、ごく最近の話としては、防衛の問題ですね。自分の国は自分で守るといって住んでいると、日本はどうかな？といます。日本国内にいと実感としては感じないかも知れません。この前、隣国からミサイルが飛んできた時に、日本では黙っていた？これがシンガポールだったら大変なことになると思いました。簡単に解決できない事情があるのでしょうか。

### 【高校生へのメッセージ】

私の研究所に全国各地の学校から高校生がやって来ています。土佐塾高校、(高知県立)西高校生。そういう高校生に、どんなお話しをしたのかを一部紹介します。

一つは、10年後、20年後を想像しながら、目の前のことに取り組もう。落ちこぼれでも構わないから、と

かく自分の分野を探して一番を指そう。自分の仕事で一流になろう。また、資源のない日本なので、技術立国として新しいものを作り出す気概を持つとう。日本国民を食べさせて行くにはどうするかというようなことも考えてみる。そういう観点の延長線上で、日本の国を将来どうして行きたいのかを考えよう。人材の国際化が進んでいて、日本の企業にいて日本人であるという優位さはもう通用しない。

英語の話になります。私の研究室では日本の大学からの研修生を受け入れています。他の国の学生と比べると、概ね英語が下手です。なぜか。英語教育の問題にも関係するのですが、発音がローマ字式。それはやめよう、ということを生徒に伝えていきます。まあ、ジョン万次郎の形式でやろう。ローマ字式の発音はしないで、聞いた音で覚える。

最近特に気になるのがカタカナ英語です。日本の公共放送の番組なんかでも、平気でカタカナ英語を使っています。47年前に比べると随分増えています。日本の放送なのに。祖国とは国語なりとも言います。GOTO EATだとかマイナンバーだとか、訳の分からない日本語があふ

れています。日本語で表現できる良い言葉があるのに。使わなければ脳の退化ってどうか、そういう事になるのじゃないか？漢字も使わなければどんどん忘れるように。

もう一つは、国際人とかいう前に、まず日本人であろう、日本語・日本文化をしっかりと身につけようということも伝えます。

人生は出会いです。色々な人との出会いを大切に、積極的に行動して、出会いを大切にして行こうということも。実際今日も、こうやって、私はまだ会ったことがない学芸の先輩、後輩と一緒にオンラインで合繋がついていますが、これを一生の良い出会いとして、これから活かしていきたいと思っています。



研究室に来た高校生と

## 第35回 (2022年)

関東支部同窓会  
特別企画 写真特集

従来、関東支部総会の後は、同窓会・懇親会を開催していましたが、今回は、一昨年、昨年に引き続きオンライン開催のため、特別企画として、部活動報告を開催しました。これは、我々の母校である高知学芸高校の生徒の皆さんが部活動の成果を発揮するはずの発表会やイベントの場が、コロナ禍によって中止や縮小になっていくことを踏まえて企画し、今回は、2022年にインターハイに出場した体操部、毎年県内大会で上位進出しているサッカー部、県展などに多くの入選者を出している美術部の活動が披露されました。総会終了後、関東支部の配信拠点、学芸高校、オンライン会議参加者で懇談し、旧交を温めました。

今年の第36回総会は、10月28日(土)に、4年ぶりに学士会館での開催を予定しております。また、3年間のオンライン開催のノウハウを活かし、オンライン配信も準備中です。奮ってご参加ください。



東京オンライン配信会場



学芸高校PC教室



3回目の部活動発表会



体操部

体操部 挨拶



体操部 練習風景



体操部インターハイ演技



サッカー部 練習風景①



サッカー部 練習風景②



美術部 挨拶



美術部 製作風景①



美術部 製作風景②



関西支部挨拶



中国支部挨拶



オンライン懇談風景

SPECIAL  
インタビュー人との繋がりが人生を回す  
坂本雅代 教頭先生 (20期)

坂本先生は、学芸中・高の音楽の先生、コーラス部顧問に加え、高知県合唱連盟理事長、合唱団の指揮者などご多忙な中、今年度からは学芸の教頭先生としてもご活躍されています。今回はNHK合唱コンクール高知県大会直後にお時間を頂き、先生が「忘れられない期」と仰る、36期の元コーラス部員が、学芸入学から現在に至るまでの人との繋がりの大切さを感じる興味深いお話を伺いました。(インタビュー…矢部(横島) 奈穂、編集…藤原清幸)

## &lt;坂本 雅代 教頭先生 PROFILE&gt;

- ・高知学芸高校卒業 (20期)
- ・国立音楽大学音楽学部声楽科卒業。向原寛、原田茂生、小野邦代、土井敏秀に師事。
- ・公立中学校教員を経て、高知学芸中学高等学校教員となり、同校コーラス部顧問として中高生を指導。  
2023年度全日本合唱コンクール全国大会に中高揃って出場(学芸コーラス部としては初!)
- ・2023年度から同校教頭に就任。
- ・混声合唱団 Pange 指揮者
- ・高知県合唱連盟理事長
- ・日本合唱指揮者協会会員
- ・高知市文化振興審議会委員

## ◆学芸に入学、声楽の道へ

小学校では校区にあった学研塾に通っていた。仲良しの友達が行くので小学校5年生から行きだしたかな。

校区としては潮江だったので一番近くの土佐へ行くつもりだったが、模擬試験を受けるとちょっと届かなくて、塾長の里見先生から「学芸に行きなさい」と勧められたのが最初やね。でも当時は、どんな学校かもどこにあるかも知らんまま入試を受けた(笑)。

合唱は小学5年の時の音楽の先生に誘われてNコンに出たのが最初。学芸で合唱を始めたのは、中1の時に横谷先生に声をかけていただいた

て、9月頃にコーラス部に入ったかな。ただ中1の時はコンクールには出なくて、中2からじゃなかったかなと思う。

声楽に進むことになったのは中2の時に高知大学など四国の4つの国立大学が主催する音楽コンクールがあって、その声楽部門に出たのがきっかけで、中3の時高知県代表になって四国大会に行くようなことをやっていたうちに、住友先生に親が呼ばれた。三者面談で、「お宅のお嬢さんは高知県で初めて東京芸大の声楽科に行く人です」と説得されて、音楽、歌の道を専門に勉強することになったかな。

当時も今も自分からこういう道に進むって決めてる意識の高い子はたくさんいるだろうけど、私のように、中学や高校での色んな人との出会いの中で何となく自分の道が決まっていくなというか、そのように導かれていく、というのは結構あるんじゃないかと思う。

## ◆声楽を学ぶ中での苦難

学芸での生活は、友達や環境に恵まれていたね。一生の友達もできたし、すごく充実していて学校に行くのは楽しかった。

大学生活は反対に苦しかった。なぜなら、大学1年の時に喉を壊して、1年間ひとこともしゃべれなかったから。実は練習しすぎて喉にポリプができてしまい病院に何度か通ったけど最後には声を出すことを禁止されて…。病院の先生から、治らないので1年間黙りなさいと言われた時は、病院で泣きに泣いた。薬では治らん、手術したらポリプ自体はなくなるけど、元の声には戻らないと言われて。やき言いつけを守って、1年間一切しゃべらんかった。

ただ進級のために試験を受けないかんで病院の先生に相談したら「上の学年に上られるだけの最低点を構わないから、1週間だけ練習を許可しましょう。ただし1日1時間だけね」と言われ、こわごわ練習してかろうじて大学2年生にあがった。

結局、大学2年の9月まで一切しゃべらんかった。最初は筆談もしてたけど、面倒臭くなって、人に会うのが嫌になって人にも会わなくなった。また、他の人のレッスンを聴いて勉強しようと思ったけど、病院の先生が大変厳しくて、音楽を聴くと声帯が収縮するから音楽を聴いちゃ駄目と言われて…。本当に地獄の1年

間でしたね。

それ以後も怖くて声が出っぱり出せなくて、もう少々等感の塊でしたね。みんながどんどん上手くなっていくのに、自分は何もできないという虚しさというか、なんでここにいるんだらう、みたいな。

後から思えば、この経験があったから仕事しだしてからも少々のことではへこたれないっていうのはあるね。今でも喉を酷使して声が出なくなるとか、ポリープができるとかしよっちゅうある。でもあの時のしんどさに比べたら何とかなるよ。

#### ◆学芸で教鞭をとり、

コーラス部顧問に

音大で取ることができる資格は教員免許しかなくて、もらえる免許であればもうに越したことはないくらい軽い気持ちで教員免許を取りよった。

大学4年生の時の教育実習で、母校の学芸に行ったけど、これが私の転機やった。配属されたのが増田先生のクラスで、たった2週間やったけど面白かったがよね。子ども達の良さに助けられ、増田先生の魅力もあってあつという間の2週間やった。当時は指導案も全部手書きだった。

たし、実技教科は教壇実習も多く、私は2週間で8時間授業をした。睡眠時間は4時間やったね。すごく大変で、本当に色々あったけど、先生という仕事もいいなと初めて思った。

でもその年は教員試験を受けたけど受からなくて、高知の城西中学校で1年間限付き講師をやった。2年目はそのまま現地城西中で正式採用になり、教員をやることになった。

学芸に戻ってきたのは、住友先生が大学へ出られて欠員が出るということで、横谷先生から個人的に声をかけていただいた。横谷先生がわざわざ家にまで来てくださったって説得さ



全日本合唱コンクール四国支部大会後の高校記念写真

れた。だけど、私は城西中学校で採用になっていたし、そこを放り出して行くことが本当に申し訳なく、どうしようかと随分まよったけど、横谷先生にすごく熱心に勧められたので決めた。

コーラス部はそれぞれの配属に合わせて、横谷先生が中学、私が高校を受け持つことになったけど、4月の新入生歓迎コンサートが終わって高3が引退したら高校は部員1人やった(笑)。高校の授業を始めるのと1年生3人が入ってくれて、4人でスタートした。でも、三部合唱なんて到底できないので、上下2つに分かれて、危ない方に私が入って歌ったりしながらスタートした。

それから高1も高2もぼつぼつ増えてきてくれたね。その後、私がコーラス部をみて、横谷先生が吹奏楽部をみて、という形にだんだん変わった。それでも中高合わせて、20数人しかおらず、1人しかいない学年もあったねえ。

#### ◆コーラス部での転機

その後、割と順調に人も増えてきて、合宿をやっても70人規模だったりして、初めてNコンに参加した(36期が中1の時)。出来はすごく良

かったのに、私の不注意で制限時間を7秒オーバーして失格になった。泣いたね。私は38年目になるけど、38年の中でも忘れられない思い出やね。本当に申し訳なかったし、これで嫌になってやめた子たちもいて、コーラス部は失速し、部員もほとんど減って少ない時代が長かった。それこそ「1人でも倒れたらコンクール出れんよ」と言いながら練習した年も随分あって、「数は力」というのを痛感した時代やったね。

その後も練習は楽しくやるけどコンクールでは入賞できない鳴かず飛ばずの時期が長かった。高知県は四国大会でどの部門も入賞できなかったし、そういうもんやと思いつつ、土佐女子の西本佳奈子先生がある年から四国大会でぐんと良い成績を取り始めた。すごくうらやましくてねえ。どうしたらあんなになるのかと思っていた時に、彼女から「県外の先生を呼んでいて、すごく良い先生なので、お金がかかるけど、学芸も習ってみたら」と声をかけてもろった。一生懸命やりゆう生徒をもう泣かしたくないっていう一心でその先生のレッスンを受けてみようと思った。それが今でも来ていただきゆう本山秀毅先生や。それこ

そ1998年ぐらいだったと思う。この先生のおかげで学芸も変わったし、高知県のレベルがぐっと上がったね。

本山先生のレッスンは衝撃やった。一振りでも声が変わるし、30分経ったらもう別の団体になっちゃった。中学生のレッスンもすごいと思うけど、何よりすごいと思ったのは高校生で、私と練習しても出ないような声を出すし、めっちゃめっちゃ歌えるというのを目の当たりにして、力が無かったのは自分ながやと思いつつ。ともかく勉強せないかん！

そう思ったね。これが今に至る道のスタートかな。今まで色々なところに勉強しに行って有名な先生方にもたくさん会ったけど、本物と思える人は数えるくらいしかない。その中のお一人に出会えてご縁が繋がったというのは、本当にありがたかったかな。子どもたちのために自分が変わっていかないと、って心底思ったし、その道標をつけてもらったって感じやね。

#### ◆コーラス部で

一番嬉しかったことは？

子供達の頑張りが評価されて、全国大会まで行けたことは、すごく嬉

しいし行った全国大会も全部覚えてる。でもそれが一番の思い出かと言われると、それよりも、子ども達と一緒に泣いたり笑ったりしていた日々の方が、私の気持ちの中では大部分を占めてる。全国大会が決まった時のうれしさは確かに一杯あるけど、それと同じくらい行けなかった時の悔しさがあるね。

全日本合唱コンクールの四国大会はほとんど8月の終わりだったけど、代表に選ばれずみんなで泣きながら帰ってきた翌日、私は疲れ切ってボロボロで始業式に来ているのに、長い間休んで爽やかな顔をして出てきている先生方や生徒に会うと本当に辛かったね。部員の誰かが「負けて涙にくれた四国大会と、翌日の始業式は、いつも1セットだった」と作文に書いていたけど、本当に、その時々悔しかった印象のほうがはるかに残っちゃう。

コーラス部のOBたちは優しくて、現役生達がコンクールで負けたとかわいそうに思って焼き肉に連れて行ってってくれていたけど、何も分かってない下級生たちは県大会とか四国大会の後は焼き肉に行くもんと思っていたらしい。ある時高校生が、「先生、大会が終わった後、焼き肉



全日本合唱コンクール四国支部大会後の中学記念写真

予約しましたから」と言ってきたことがあって、私は力チンとききて、「あんたら、どういうことで！負けるつもりか！！」って怒ったこともあるね(笑)。

#### ◆今年から教頭に就任して

やっぱり立っている位置が変わると見えるものも変わるし、考えないといけないものも全然変わってくるので、そういう意味では思った以上に色々変わってきた。自分の中でも変わってきたし、しないといけないこともずいぶん変わった。

自分は中高生の時も勤めだしてからも学芸が大好きでここまでやって

きたので、これからの学芸のことを思ったらこうありたいなとかこうしたいなっていうのはすごくある。

今までは音楽のことだけ考えたら良くて、音楽で学校に少しでも貢献できたらいなと思っていた。別に、音楽以外はどうでもいいと思っていた訳じゃないけど、私ではどうしようもないものばかりだったし。ただ責任を背負った時に、見えてくるものと、しないといけないことが自ずと変わってくることは、やはり大きいです。

コーラス部は、教頭職が忙しくて、一学期の間に10回も行けてないんじゃないかと思うけど、その間子どもたちが自分達で一生懸命やってくれて、本当にありがたいと思う。夏休みになって行けるようになったから、今はものすごい勢いで「うわーっ」ってやってます(笑)。ともかく、ほかでも子ども達のために、やれることはやっておきたいと思うのと同時に、次の先生にバトンタッチできるようにしないといけないな、と思ってます。

これからの私の課題は、教頭職の間にごまかせるかってことやね。やはり学芸という学校がこれから先もずっと残って栄えていくため

には、校長先生も言っていたけど「変わらないうちには、変わっていく事が大事」なんだって本当に思っています。学芸の何を良きとして残して引き継いでいくのか、そのために何が変わらないといけないのかをしっかりと見据えて、他の先生方と一緒に力を合わせて動いていきたいです。

#### ◆卒業生の方へのメッセージ

卒業生の皆さんが「学芸を卒業したんだ」と胸を張れる母校のままでいられるように、精一杯頑張らないといけないと思ってるので、ぜひ母校を応援してもらいたいです。

コーラス部は卒業生がよく学校を訪ねてくれたりつながりがいつまでも残っていてありがたいと思うけど、中には卒業したらそれっきりっていう方たちもきつといるんじゃないかなと思います。

これから「自分の土台を作ってくれたのは学芸だ」と思ってもらえるような学校であり続けたいと思っていますので、是非とも応援してください。あと、母校の活躍や様子も一緒に楽しんでもらえたら嬉しいですね。



#### ◇インタビュウを終えて◇

学芸入学以来、坂本先生が音楽の先生で、コーラス部の顧問でしたので、交流や思い出もそれなりにありました。今回、坂本先生の学芸入学から近況までのお話を伺い、当時は子供故に分からなかったことについて気づいたり、コーラス部躍進のきっかけに納得したり、人との出会いの大切さを痛感したりと、目から鱗のお話一杯で、楽しくインタビュウさせて頂きました。お忙しい中、お時間を頂き、ありがとうございました。今後の益々のご活躍をお祈りしております。

(36期 藤原清幸)

## 高知学芸コーラス部 中高ともに全国大会出場決定！

2023年9月2日(土)・3日(日)に、第76回全日本合唱コンクール四国支部大会が開催され、学芸からは中学・高校コーラス部が出場し、共に全国大会の切符を手に入りました！(中高揃って全国大会に出場するのは初とのこと)。結果は以下の通りです。

高知学芸高校コーラス部 高等学校部門・Aグループ 金賞・全国大会出場

高知学芸中学コーラス部 中学校部門・同声合唱の部 金賞・全国大会出場

全国大会は、2023年10月28日(土)・29日(日)に香川県のレクザムホール(香川県県民ホール)にて行われます。ライブ配信も実施することになるので、応援よろしくお祈りします！

○2023年10月28日(土)：高等学校部門

高知学芸高校コーラス部は、Aグループ(前半)の10番目に登場予定

○2023年10月29日(日)：中学校部門

高知学芸中学コーラス部は、同声合唱の部(後半)の11番目に登場予定

○入場券は「あさチケ」で購入、ライブ配信チケットは「朝日新聞社配信システム」で購入



あさチケ



朝日新聞社配信システム

## 各期の声

ずっと元気に生涯現役で

20期 蒲池(入交)啓子



皆様こんにちは、20期卒業の蒲池啓子(旧姓入交)です。私は高校からの外部組出身ですが(弟の建太は中高の22期卒業です)、卒業後45年経た今も学芸の同級生とはとても仲良くさせていただいていて本当に在学中のご縁はありがたいと思っています。

ここでは私の仕事について少しお話しさせていただきます。皆様に少しでも元氣や勇氣をお届けできたらうれしいです。

私は小さい頃から絵を描くことと料理が大好きでした。学芸高校卒業後は女子美術短期大学へ進学し、グラフィックデザインを2年間、宣伝計画を1年間学びました。卒業後

羊羹の虎屋でグラフィックデザイナーとして勤務しました。

料理が大好きなのは変わらず、40歳を過ぎた頃、やはり料理を仕事にしよう!と大手クッキングスクールの試験を受け、料理講師として料理を仕事にすることをスタートさせました。新しいことを始めるのに年齢は関係ないですね、熱い思いは情熱があれば!と今も思っています。クッキングスクールに長く勤務した後、数人の料理研究家の元で修行をしてから東京で自分の料理教室を立ち上げました。

2012年、教室設立から1年後、たまたまイタリアのミラノに家を持っている友人のところへ遊びに行く機会を得ました。それまではイタリアには全く興味はなかったのですが(笑)、イタリアで食べる本当のイタリア料理は日本で食べるイタリア料理と全く違い、シンプルで旬の食材を活かすものばかりで美味しく、衝撃を受けました。それで少しの間、イタリアで勉強をしてみよう、と住むことにしました。ちょうど日本で離婚が成立し1人になったこともあり、1度きりの人生、好きなことをしてみよう、違う人生も味わってみよう、と考えました。



イタリアのレッスン

運良くすぐにイタリアの個人自営業ビザも取得できました。本当に運がよかったです。イタリアは失業率も高く自国の経済もまわっていないため、申請しても10人に1人くらいしか取得できないのです。ミラノの自宅で在伊日本人や外国人に料理を教えながら(最初はイタリア語が話せなかったのですが)、ミラノでの生活を始めました。また同時期にご縁があり、アメリカ・ニューヨークでも家を借り料理教室を主催、東京・ミラノ・ニューヨークの家を2、3ヶ月ごとに移動し、私がいる所で料理教室を開催するスタイルを2年ほど続けました。国が違くと考え方も食材も料理も仕事に対する考え方も全く違う!当たり前なことですが、この時期が今の私の固定観念をあまり持たない考え方のベースを作ってくれたような気がいたします。ミラノでは在ミラノ日本領事館や

日本好きの方の多いイタリアの財団の後押しをいただき、口コミで少しずつですが生徒さんが増えていきました。イタリア人は日本人よりもずっと保守的なんです。新しいものに飛びつかない(新しいお店ができても1年くらい行かないで前を通り様子をみる(笑))くらい用心深いので、教室に来てくださった方の口コミでじわじわと広がっていききました。このじわじわ期間が2年くらいありました。

その後、ミラノでは和食ブームが始まりました。寿司やラーメン以外の和食というものもどうやら美味いらしい、という認識です。3カ国にまたがる3軒の家の管理や行き来も大変でしたので、思い切って東京とニューヨークの教室の家を閉め、ミラノだけにし、イタリア人にフォーカスした和食料理教室へ特化し、しばらくミラノで仕事に集中することにいたしました。

当時はイタリアでは板前さんが開いている和食教室はあったのですが、私のように教室に特化して、それだけを仕事にしている人がいなかったこともあり、また先にお話ししましたようにミラノ領事館からご紹介いただいたイタリアでは超がつ



20期の同期のみんなで

く有名な芸能人の方々が（私は存じませんでしたが）何人もいらしてくださり、ご自身のインスタグラムや番組で宣伝してくださり、他方本願で爆発的に生徒さんが増えました。ありがたいことです。こうして足掛け7年、ミラノで和食料理教室を主宰しました。最終的には生徒さんは850人を超えました。あいにく2020年春のコロナ禍でイタリアは壊滅的な社会状況になったため、やむなく教室を閉めて日本へ帰国いたしました。

帰国してからは東京浅草の自宅でレッスンをしていましたが、現在はこの8月に結婚した夫と東京世田谷

で暮らしながら、新しい家で、この秋からレッスンを再開する用意をしています。日本ではイタリアで食べられている本当のイタリア料理をメインに教えています。レッスン以外にはオンラインレッスン・ケータリング・レシピ開発・レシピ本執筆などもしています。アマゾンより上梓したレシピ本は4冊で、3冊はイタリア語ですが、この8月に出版したレシピ本は初めての日本語レシピ本です。「小さなキッチンで作るおうちイタリアン」で、家で簡単に作れる本当にイタリアで食べられているレシピを載せています。よかつたらぜひ作ってみてください。

この料理の仕事は定年もなく、ずっと元気に生涯現役で「楽しい！美味しい！」料理で皆様のお役に立てたらうれしいと思っております。（インスタグラムアカウント @keiko.kitchen）



Easy Italian Recipes  
You will love sharing her wisdom from her home in Italy  
小さなキッチンで作る  
おうちイタリアン  
Vol.1  
入交啓子

## セキセイインコで

### ホームステイ

22期 和泉彰宏

高知学芸高校受験のきっかけは、剣道を続けるために東京教育大学を目標にしたことでした。初めて竹刀を握ったのは10歳の頃でしたが、時を同じく持った趣味がセキセイインコの遺伝研究です。「父の知人から4羽譲ってもらったのがきっかけでした。」と、これだけ聞くと普通の話でも、その飼い主、表の仕事は工務店、裏の稼業は2千羽飼育のブリーダー。中学校の頃は、日曜日に家に居なくても心配されなかったそうです。「武道具店か2千羽のセキセイインコかの、どちらかだろう。」と。中学校を卒業する頃には、50羽に。そこで「高校に入ったら、勉強も剣道もせんといかんがやき、ええ加減に止めなさい！」と母の強烈なカミナリで、一度終了。ただ、学芸に入ると、生物の羽方雅彦先生も飼育されていたそうで、前掲のブリーダーさんをご存じでした。

社会人になって暫くは、自分が食べることで精一杯。30代後半から再び飼い始めることに。今現在飼っているのは、日本では「大型セキセイ」と呼ばれるセキセイインコ。豪州の

原野にいた原種が英国で様々な色と模様改良され、さらに品評会用に体格も大きく改良されました。現在、欧州を中心に毛を長くすることに拘っています。

本場英国のトップブリーダー宅で鳥を観て、帰る時に駅で「今日はどこで泊まるんだ？」と聞かれ、「予約したホテル。」と返事をする、「うちで泊まればいいのに。」と。翌年からは、品評会に合わせてホームステイをすることに・・・。

50歳を過ぎて英国でホームステイができたなんて、在学中からすれば夢のようです。彼は日本語を話さず、私の英語も片言。それでも招いてくれたことに感謝。還暦を迎えた今、片言の土佐弁イングリッシュであっても何とか渡英できたのは、半世紀近く前に学芸の学び舎に通ったおかげだと思っております。（追伸 渡英は、コロナ前のことです。）



無断転載禁止

## 卒業50周年のお祝い

今年卒業50周年を迎える15期に加え、今までお祝いできていない12〜14期も対象として行いますので、是非ご参加ください。対象期の方からコメントを頂いたので紹介します。

10月13日までに「参加」のお返事を頂いた12〜15期の皆さんには、記念品をご用意いたします。(事務局)

12期 西村新



関東支部総会はコロナ禍で3年間のZoomでの開催でしたが、今年は従来通りの学士会館での開催となります。

我々12期は早いもので卒業してから50年超となってしまいました。

古希を過ぎ身体的には老人の仲間入りとなり私自身も健康に不安を抱えながらの生活となってしまいました。精神的にはまだまだ現役世代と同等の粋で頑張っております。

故郷を離れ半世紀が過ぎ望郷の念

がますます強くなっており、度々帰高しては生まれ育った故郷の変わりゆく姿に寂しさを感じながらも、故郷の景色は変われども己の土佐っ子精神は幾つになっても変化のないことを確認しています。

12期の皆さん方は如何でしょうか。今年の総会は久々の会場での開催でもあり、又とない皆さん方との再会のチャンスです。皆で参加してお互いの近況や故郷高知を語り合い旧交を温め合いませんか。多くの皆さんの参加を期待しております。

13期 伊藤眞人



（温故知新そして人生百年へ）

早いもので、高知学芸高校同窓会の関東支部の会が毎年秋に開催されるようになってからもう30年以上になります。私たち13期生では、畏友・笹岡和彦氏（E組）が中心となって、関東に住む同期生の参加者を少しずつ増やしていき、一度は訪れる幹事役の年を無事に乗り切りました。関東を中心とする春の同期会が始まっ

## 高知学芸高等学校同窓会関東支部 会計報告

(期間：2021.10.1～2022.9.30) 2022.10.17

区分	項目及び概要	金額(円)
【収入の部】	1.前期繰越金	961,029
	2.第34回(2021年)総会参加費	0
	3.年会費 ・総会当日分(0円) ・振込(164,000円)	164,000
	4.祝金(同窓会本部)	157,700
	5.銀行利息	8
	収入・計	1,282,737
【支出の部】	1.第34回(2021年)総会関係 ・会場費(29,810円) ・雑費・交通費(0円) ・幹事会会場費等(5,860円)	35,670
	2.案内はがき印刷・発送 ※「あさかぜ35号」は幹事会制作・オンライン発行のため無料	117,574
	3.関東高知県人会(含む振込料)	5,220
	支出・計	158,464
【残高】	次期繰越金	1,124,273

たのも、秋の関東支部の会に集う機会があったからこそです。近年は、同期会の参加者がさらに増えていくと共に、関東支部の会へは残念ながら足が遠のきがちのようでした。3年あまり前に始まったコロナ禍によって、関東支部の会はオンラインでの開催継続を余儀なくされ、恒例になっていた卒業50周年記念の企画も中断されました。この秋、対面開催が再開される運びとなり、50周年記念の企画は対象を12期まで

遡って再開されることとです。この機会に、若き学舎で青春時代のもっとも長い時間を共に過ごした先輩方・後輩方とも一緒に、50周年を迎えられたことを喜び合い、朝風の清しき国に思いをはせるきっかけになった「らんまん」のことなどを語り合うことができれば大いに幸せです。そして、共に英気を養い、人生百年の時代へと足を踏み出していきたいと思えます。皆様の参加をお願いいたします。

第36回関東支部総会  
特別授業の講師紹介

株式会社志道館代表取締役

坂東真夕子氏(37期)



【経歴】

高知学芸中学校、高知学芸高校、横浜国立大学(教育学部)で警視庁でオリンピックを目指し柔道に打ち込む。

選手引退後は、警視庁を退職し、株式会社インテリジエンス、ジブラルタ生命保険株式会社で営業職、営業管理職を務める。

2013年8月より現職。

【主な柔道戦績】

- 1992年 全国中学校柔道大会準優勝
- 1995年 全国高等学校柔道選手権大会準優勝
- 1998年 全日本女子学生柔道体重別選手権大会優勝
- 1999年 世界学生柔道大会準優勝
- イギリス国際柔道大会3位
- 全日本女子学生柔道体重別選手権大会準優勝
- 2000年 国民体育大会優勝
- 2000年、2002年 東京都女子柔道体重別選手権大会3連覇

同窓会関東支部 役員・幹事名簿

役員	役職	期	氏名
	支部長	6期	石川 明男
	副支部長	18期	中城 千秋
	副支部長	22期	市川 浩幸
	会計	29期	西 雅史
	監査	30期	前田 泰志
	顧問	3期	細川 律夫

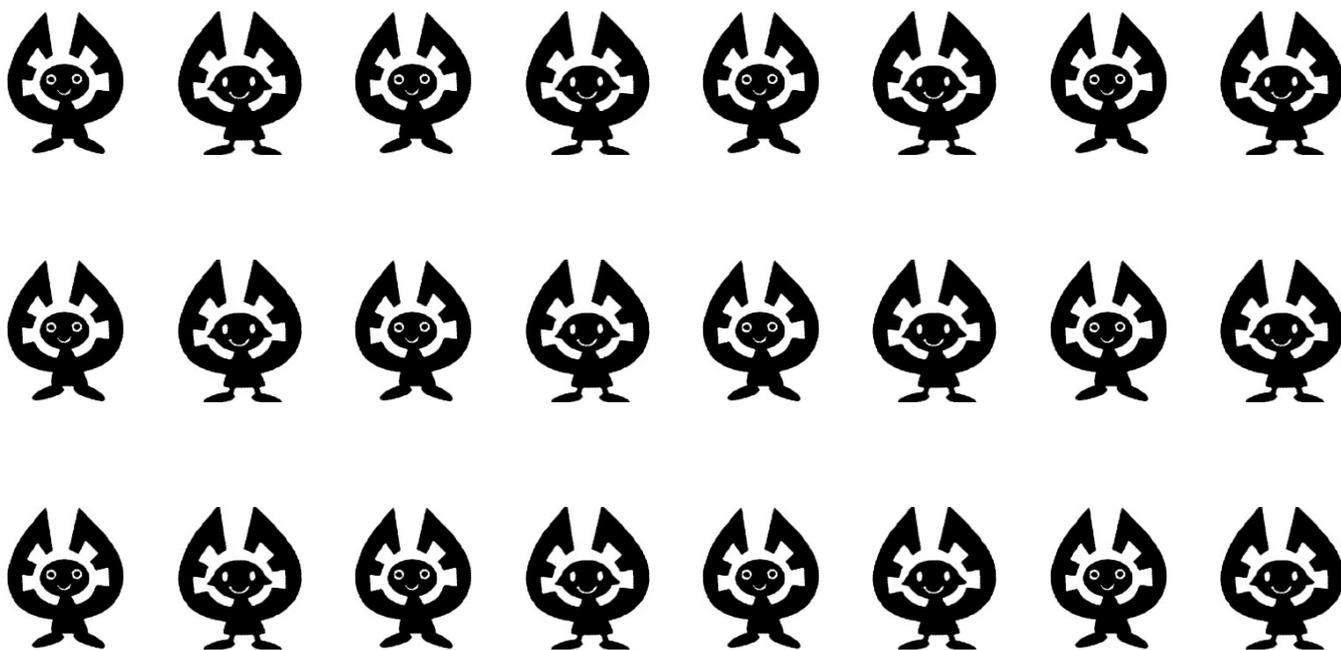
常任幹事	役職	期	氏名
機関誌編集		23期	伊野部 京子
		31期	西田 順也
		36期	藤原 清幸
		41期	坂東 千沙
	H P 管理	30期	上村 泰史

学年幹事	期	氏名(旧姓)
	1期	見野 昌宏
	2期	津川 武夫
	3期	細川 律夫
	4期	安藝(大谷) 孝彦
	5期	多田 恵明
	6期	石川 一男
	7期	佐野 正子
	8期	本(十) 初洋
	9期	岡依川 志三
	10期	依川 光田
	11期	内藤 藤村
	12期	西津 野村
	13期	津中 野城
	14期	岡田 森
	15期	西

学年幹事	期	氏名(旧姓)
	16期	濱崎 一彦
	17期	國藤 隆
	18期	加地(森本) 千球
	19期	中城 三
	20期	種澤(前田) 園子
	21期	山崎 章浩
	22期	市川 幸司
	23期	伊野部 京子
	24期	伊野部 幸
	26期	木野 正和
	27期	宇陀 雄一郎
	28期	岡谷 恭孝
	28期	谷村 拓郎
	29期	西和 雅史
	29期	和田 英朗

学年幹事	期	氏名(旧姓)
	30期	前田 泰志
	30期	住友 謙一
	31期	西田 順也
	32期	西平 伸
	33期	池(市原) 卓
	35期	林 直孝
	35期	藤原 裕久
	36期	藤岡 清邦
	36期	岡野 真夕
	37期	坂東 真夕
	38期	坂東 真夕
	38期	坂東 真夕
	41期	坂東 真夕
	42期	坂東 真夕
	43期	坂東 真夕

学年幹事	期	氏名(旧姓)
	43期	土田 由紀
	44期	松坂 雄介
	50期	山本 憲二
	50期	山本 優太郎
	53期	岸本 拓磨
	54期	高山 橋中
	56期	池田 美結
	56期	神崎 美聡
	57期	竹内 美由
	57期	竹島 美由
	64期	



同窓会会員各位

2023年9月吉日  
高知学芸高等学校同窓会関東支部  
支部長 石川 明男**高知学芸高等学校同窓会関東支部 第36回総会のご案内**

コロナ禍で2020年から2022年まで対面開催が出来ませんでしたでしたが、本年は下記ご案内の通り、10月28日(土)に第36回総会を学士会館にて開催致します。

多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

- 日 時：2023年10月28日(土)15時～18時30分
- 場 所：学士会館(神保町)  
〒101-8459 東京都千代田区神田錦町3-28 TEL.03-3292-5936
- 学士会館へのアクセス：
  - ・「都営地下鉄三田線」「都営地下鉄新宿線」「東京メトロ半蔵門線」【神保町駅】下車、「A9出口」徒歩1分
  - ・「東京メトロ東西線」【竹橋駅】下車、「3a出口」徒歩5分
- 会 費：当日会費 7,000円 (53期～：5,000円、学生：2,000円)  
年 会 費 2,000円 (学生：無料)

**式 次 第**

開 場 (受付開始)	14:30～
総 会 (活動報告、会計報告、役員改選等)	15:00～15:30
特別授業 坂東 真夕子 氏 (37期) 「学芸からオリンピックに挑戦、その挑戦から得たもの」	15:30～16:20
懇 親 会 (立食パーティー)	16:30～18:30

- 出欠の連絡：  
同封の返信用ハガキか、右記のQRコードからご出欠をご連絡下さい。  
QRコードからの連絡は簡単です。郵便費用の削減にご協力ください。  
返信用ハガキ投函、QRコードからの連絡の期限は10月10日(火)までです。

**<年会費振込のお願い>**

年会費(2,000円)は、同封の振込用紙での郵便振込か、銀行振込(下記)でお願いします。  
三井住友銀行 上野支店 (779) 普通預金「8224917」  
「高知学芸高等学校同窓会関東支部 会計 西 雅史」

**<関東支部からの情報発信>**

- ◎関東支部ホームページ (<http://kochigakugeikantoob.web.fc2.com/>)  
関東支部主催イベントのご案内、会員同士の交流のお知らせ、「あさかぜ」のバックナンバー等、ご覧いただけます。  
総会・懇親会の出席連絡も簡単な操作で可能です。
- ◎関東支部公式Twitter (アカウント名：@kg\_kob)  
ホームページの更新や関東支部からの情報を広く皆様へ発信してまいります。フォローをお願いします。
- ◎関東支部Facebookグループ (非公開グループ：高知学芸高校同窓会関東支部)  
会員同士が自由に情報を発信して交流を図っています。ホームページの更新等も確認できます。Facebookでグループ名  
高知学芸高校同窓会関東支部を検索し、グループに参加して下さい。既存メンバーに承認依頼するとスムーズです。



関東支部ホームページアドレス

<http://kochigakugeikantoob.web.fc2.com/>
